

20002

OCTにおけるDisplay方法による見え方の違いについての検討

【目的】明瞭な中膜・石灰化及び不明瞭な中膜・石灰化のトレースを行い、Golden image(以下 GI)と Gray scale(以下 GS)の画像表示方法によって違いが出るか検討した。【方法】明瞭に描出された中膜及び石灰化像の全周をトレースし、それぞれの計測結果と計測時間を計測した。不明瞭な中膜及び石灰化像に対しても同様の計測を行う。これを技師6人で行い平均を算出しGIとGSの結果の比較計測を行った。【結果】明瞭に描出された中膜の計測結果はGIvsGS:5.9mm²±0.14vs5.8mm²±0.08(p=0.25)、石灰化の結果はGIvsGS:0.65mm²±0.07vs.0.65mm²±0.04(p=0.72)であった。計測時間に関しては中膜がGIvsGS:62.9sec±22.7vs46.5sec±13.9(p=0.15)、石灰化がGIvsGS:21.0sec±9.13vs19.6sec±9.17(p=0.55)とともに有意差を認めなかった。不明瞭な中膜の計測結果はGIvsGS:15.2mm²±1.0vs15.9mm²±1.5(p=0.20)、石灰化がGIvsGS:2.92mm²±1.8vs2.6mm²±0.9(p=0.22)と有意差を認めなかったが、計測時間は中膜がGIvsGS:74.1sec±30.5vs50.0sec±17.0(p=0.05)、石灰化がGIvsGS:64sec±26.0vs47.7sec±20.5(p=0.02)と計測時間に有意差を認めた。【考察】明瞭に描出された像に関して差は認めなかったが、不明瞭な像に関しては計測結果には差がでなかったものの、計測時間において有意な差を認めた。これは不明瞭な像では計測対象像の認識に時間を要してしまうため、計測時間のみ有意な差が認められたと考えられる。以上よりGIと比較してGSが人の目における像認識精度が高いため、計測及び判読に有用であると考えられる。